

「宮城の未来ビジョン」における体系	政策名	8 生涯現役で安心して暮らせる社会の構築	政策担当部局	保健福祉部, 企画部, 環境生活部, 保健福祉部, 経済商工観光部, 農林水産部, 教育庁
			評価担当部局	保健福祉部

政策の状況

政策で取り組む内容

生涯を安心して暮らすためには、生活を支えるための安定した経済基盤が必要です。このため就業意欲のある県民が一人でも多く就業できるよう富県宮城の実現により就業機会の確保に取り組みます。

特に団塊の世代が高齢期を迎えるこれからは、意欲や能力のある高齢者が仕事や地域活動などに活躍する機会を創出していくことが必要であり、企業・NPO・市町村とも連携しながら、こうした人々の就業機会の確保や社会貢献活動等に参加するための環境づくりを進めます。

また、障害者についても、障害による不便さを社会全体で補い、生活の場や自立した生活を送るための就労の場の確保などを進め、生きがいを持つ環境を整備します。

一方、生涯現役でいきいきと暮らしていくためには、若い時から健康に対する意識を高めることが重要であることから、県民の心と体の健康づくりを進めます。併せて、介護が必要になっても地域で生活ができるように支援機能の充実を図ります。

また、県内の各地域において、生涯を通じて必要な医療を受けることができる体制や、感染症の集団発生等に備えた健康危機管理体制、さらには体系的な救急医療体制を充実する必要があります。このため、医療機能の集約化、拠点化、地域間の役割分担等を進め、医師確保や医師の地域的偏在の解消等を図ります。

県民一人ひとりが誇りを持ち、自分らしい生き方を実現するためには、すべての人の人権が尊重されることが基本であることから、権利擁護のための体制整備や県民の意識啓発を進めます。

また、生涯を通じて潤いのある生活を送れるよう、多様な学習機会や芸術文化・スポーツに親しめる環境整備を一層推進します。

政策を構成する施策の状況

施策番号	施策の名称	事業費 (決算(見込)額, 施策の事業費合計)	目標指標等の状況	現況値 (測定年度)	達成度	施策評価
18	多様な就業機会や就業環境の創出	147,013千円	新規高卒者の就職内定率	96.6% (平成19年度)	A	概ね順調
			ジョブカフェ利用者の就職者数	2,101人 (平成19年度)	A	
			障害者雇用率	1.57% (平成19年度)	B	
19	安心できる地域医療の充実	232,509千円	医療法に基づく医師数の標準を充足している自治体病院(県立病院除く)の割合	57% (平成18年度)	A	やや遅れている
			救急搬送時間	34.7分 (平成18年度)	C	
			がん患者の在宅看取り率	8.35% (平成18年度)	B	
			病院及び介護サービス施設, 事業所に従事するリハビリテーション専門職(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)の数	1,119人 (平成18年度)	A	
			認定看護師数(皮膚・排泄ケア認定看護師数)	8人 (平成19年度)	A	
20	生涯を豊かに暮らすための健康づくり	359,800千円	肥満者の割合(30歳以上の男性)	36.3% (平成18年度)	C	やや遅れている
			肥満者の割合(40歳以上の女性)	34.5% (平成18年度)	C	
			がん検診受診率(胃がん)		N	
			がん検診受診率(肺がん)		N	
			がん検診受診率(大腸がん)		N	
			がん検診受診率(子宮がん)		N	
			がん検診受診率(乳がん)		N	
3歳児の一人平均むし歯本数	1.78本 (平成18年度)	B				
21	高齢者が元気に安心して暮らせる環境づくり	538,800千円	認知症サポーター数	10,011人 (平成19年度)	A	順調
			主任介護支援専門員数	200人 (平成19年度)	A	
			介護予防支援指導者数	12人 (平成19年度)	A	

22	障害があっても安心して生活できる地域社会の実現	214,091千円	「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に基づく適合証の交付割合	11.1% (平成17～19年度)	C	概ね順調
			グループホーム利用者数	1,253人 (平成19年度)	B	
			受入条件が整えば退院可能な精神障害者数	1,512人 (平成18年度)	B	
			重症神経難病患者のうち、訪問看護サービスを利用している患者の割合	24.6% (平成18年度)	A	
23	生涯学習社会の確立とスポーツ・文化芸術の振興	304,959千円	公立図書館における県民一人当たりの図書資料貸出数	3.6冊 (平成18年度)	A	概ね順調
			総合型地域スポーツクラブの創設数	25クラブ (平成19年度)	A	
			みやぎ県民文化創造の祭典参加者数(うち出品者・出演者等の数)	960(35)人 (平成19年度)	B	

※目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

政策評価(総括)		
政策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由・各施策の成果の状況
・各施策の成果等から見て、政策の進捗状況はどうなっているか。	概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯現役で安心して暮らせる社会の構築に向けて、六つの施策で取り組んだ。 ・施策18で、事業については、ほぼ目標どおり施行し、新規高卒者の就職内定率とジョブカフェ利用者の就職者数は目標値を上回っているなど、その成果も着実に上げている。 ・施策19で、医療を取り巻く環境が厳しくなっている中、事業の実績及び成果等から見て、施策自体はほぼ効果的に展開されているものの、一部の目標指標や県民満足度の向上につながっていない状況にある。 ・施策20で、国の医療制度改革の動向を踏まえた「みやぎ21健康プラン」の改定やがん対策基本計画に基づく「宮城県がん対策推進計画」の策定を行なったほか、感染症危機管理対策事業などを実施しており、それぞれの事業に関しては、施策の成果がある程度認められる。 ・施策21で、事業の実績及び成果等からは、施策を構成するほとんどの事業で目標を達成しており、一定の成果がみられた。また、介護支援に携わる者の資質が順調に向上していると判断される。 ・施策22で、バリアフリー・ユニバーサルデザイン社会実現のための施設整備等については、普及啓発事業等の実施により一定の効果が見られた。また、各種相談事業等について多くの相談ニーズやそれぞれ一定の成果が認められる。 ・施策23で、三つの目標指標の現状は、目標を達成しているもの一つ、ほぼ目標値に近似しているもの一つ、目標に達成していないが現状維持のもの一つと目指すべき方向に推移しており、また、各事業の実績からは、いずれも一定の成果が得られている。 ・以上のことから、生涯現役で安心して暮らせる社会の構築は、概ね順調に推移していると考えられる。

政策を推進する上での課題等	※施策の必要性・有効性・効率性の観点からの課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・施策18の多様な就業機会や就業環境の創出について、事業を進める中で人材の確保に課題があるものや参加者の伸び悩みがある事業があり、事業の周知等をこれまで以上に進める必要がある。 ・施策19の安心できる地域医療の充実について、順調に推移していない「救急搬送時間」、「認定看護師数」の2つの成果指標の達成に向けて、関係機関・団体の理解・協力の下、より一層連携を強化しながら事業を実施していく必要がある。 ・施策20の生涯を豊かに暮らすための健康づくりについて、事業の認知度が低いと考えら、特に、「みやぎ21健康プラン」は、県民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むための行動指針となる計画であることから、事業の周知を今まで以上に進める必要がある。 ・施策21の高齢者が元気に安心して暮らせる環境づくりについて、高齢者の人権尊重や権利擁護を一層推進するためには、市町村における体制の充実を図り、ノウハウの蓄積を進める必要がある。 ・施策22の障害があっても安心して生活できる地域社会の実現について、公益的施設のバリアフリー化の促進を図るとともに、バリアフリーに関する県民等の認識をさらに高める必要がある。 ・施策23の生涯学習社会の確立とスポーツ・文化芸術の振興について、社会の変化により、本施策に対する必要性・重要性はますます高まってくるが、限られた予算でいかに効果的に県民のニーズに対応し、サービス向上を図るか、また、各分野において、各年代のニーズに対応できるようなサービスの提供が課題である。 	